

(3) 保養施設

ア これまでの取組み

保養施設として、「リフレッシュ交流センター（ほっと館）」、「雄勝自然休養村管理センター」、「皆瀬農業者等休養施設」を設置しています。

このうち、「皆瀬農業者等休養施設」については、令和4年4月1日をもって条例を廃止し、民間事業者に譲渡しています。

なお、「稲川老人福祉センター緑風荘」は「介護予防拠点施設」と併せて「緑風荘」として、令和6年度から温泉保養施設として位置付けることにしています。

○譲渡した施設（1施設）

施設No.	施設名称	所在地	地区	区分
養3	皆瀬農業者等休養施設	皆瀬字小湯ノ上79-3	皆瀬	譲渡

○現有施設（4施設）

施設No.	施設名称	所在地	地区	所管課
養1	リフレッシュ交流センター（ほっと館）	下院内字田用橋84	院内	長寿福祉課
養2	雄勝自然休養村管理センター	秋ノ宮字殿上1-38	秋ノ宮	観光・ジオパーク推進課
養4	稲川老人福祉センター緑風荘	駒形町字八面寺下谷地22-1	駒形	長寿福祉課
養5	介護予防拠点施設	駒形町字八面狼ヶ沢18-3		

イ 現状と課題

保有する4施設は1施設を除き新耐震基準で建設していますが、老朽化が進んでいます。

管理運営は、1施設は指定管理者、3施設は市直営で行っています。

施設No.	施設名称	建築年	法定耐用年数	経過年数	延床面積(m ²)	運営形態	職員数	支出(千円)	収入(千円)	利用人数
養1	リフレッシュ交流センター（ほっと館）	H9	22	25	783	指定管理	—	22,264 39,819	— 41,350	40,000
養2	雄勝自然休養村管理センター	S56	50	41	391	直営管理	—	787	—	—
養4	稲川老人福祉センター緑風荘	S57	47	40	718		会9	35,662	9,049	41,100
養5	介護予防拠点施設	H14	47	20	245		1	—	80	

※支出・収入欄の2段書きのうち、上段は市、下段は指定管理者の収支額

養1 リフレッシュ交流センター（ほっと館）

高齢者や身体障がい者をはじめとした市民の憩い・交流の場の施設で、木造一部鉄骨造平屋建て、延床面積783m²。平成9年に新耐震基準で建設し、建築から25年経過し、施設・設備の老朽化が進んでいます。平成16年に浴場設備改修工事、令和元年にボイラー更新工事、令和4年度に内外装・冷暖機器・衛生設備等の修繕を実施しています。

開館日・開館時間は、8月13日、年末年始（12月31日、1月1日）と毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）を除く毎日、9時から21時まで利用でき、管理運営は指定管理者が行い、指定管理者が支出する管理運営費は39,819千円で、指定管理料22,251千円のほか施設利用料10,548千円（温泉の利用料：大人300円、小人（小学生）250円、高齢者（65歳以上）・障がい者250円※入湯税を除く）など合計41,350千円の収入があります。市は指定管理料のほか建物保険料で13千円をあわせ22,264千円を支出しています。

施設は、浴室2ヶ所、大広間、小部屋2室、談話室、集会室で構成し、地域住民の憩いの入浴施設として使用され、年間約40,000人が利用しています。

養2 雄勝自然休養村管理センター

地域の自然を生かし、市民の休養と交流を深める場の施設で、鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積391㎡。昭和56年に旧耐震基準で建設し、耐震診断は未実施で、建築から41年経過し施設・設備の老朽化が進んでいます。

施設は、男性浴室、女性浴室、総合研修室、研修室（5室）、会議室で構成。利用者の減少のため平成27年度で閉鎖し、現在は、県有の温泉施設への温泉供給のための経路施設としての役割を担っています。管理運営は市直営で行い、管理運営費は787千円となっています。

養4 稲川老人福祉センター緑風荘

高齢者の健康増進の場の施設で、鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積718㎡。昭和57年度に湯沢雄勝広域市町村圏組合が新耐震基準で建設した建物で、平成31年4月1日に湯沢市に譲渡され、建築から40年経過し、施設・設備の老朽化が進んでいます。平成9年度に現在の浴室部分を増築し、平成14年度には介護予防拠点施設を合築しています。

開館日・開館時間は、年末年始（12月31日、1月1日）と第3月曜日（祝日の場合はその翌日）を除く毎日、9時30分から21時まで（部屋の使用時間は18時まで）、第3を除く月曜日は9時30分から17時30分まで（部屋の使用時間は16時30分まで）で、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は35,662千円で、施設使用料（入館料：大人250円、小人（小学生）200円、高齢者（65歳以上）・障がい者200円※入湯税を除く）8,787千円など合計9,049千円の収入があります。

施設は、浴室2ヶ所、生活相談室、和室2部屋、図書室、健康相談室、教養娯楽室、集会室2部屋、調理実習室、機能訓練室、多目的スペースで構成し、教育娯楽室と集会室2部屋は大広間（休憩室）として使用できるほか、機能訓練室と多目的スペースは無料開放しています。有料で貸し出ししている部屋は、主に団体や家族に使用され、年間約3,700人が利用し、介護予防拠点施設の浴室とあわせ年間約41,100人が利用しています。各部屋の利用状況は次のとおりです。

【利用状況】

部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)
生活相談室	0	和室1	23	和室2	56
図書室	17	健康相談室	2		

養5 介護予防拠点施設

高齢者が要介護状態になることを予防し、自立した生活の確保と健康増進のための施設で、鉄筋コンクリート造平屋建て、延床面積245㎡。平成14年に新耐震基準で、緑風荘に合築して建設し、建築から20年経過しています。

開館日・開館時間は、年末年始（12月31日、1月1日）と第3月曜日（祝日の場合はその翌日）を除く毎日、9時30分から21時まで（第3を除く月曜日は9時30分から17時30分まで）で、管理運営は、入浴料収入を含め緑風荘と一括して管理しています。

施設は、デイルームと浴室で構成し、デイルームの利用料は無料で、平成30年7月まで介護予防事業で利用されていましたが、現在は、休憩室として提供しています。また、入浴施設は緑風荘にある2ヶ所とあわせて運営しています。

【現状と課題のまとめ】

保養施設4施設のうち、1施設は用途を廃止し、県施設の温泉供給のための経由施設となっており、実質は「ほっと館」と「緑風荘」（介護予防拠点施設を含む）を継続することになります。

両施設は、指定管理者制度を導入して管理運営を行います（緑風荘は令和6年度導入予定）が、温泉保養施設として類似の施設であり、さらに効率的・効果的な経営を図るため、包括的な管理運営手法について検討が必要です。

ウ 今後の方針とスケジュール

総合管理計画の今後の方向性に基づき、「施設の安全性」、「施設の必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」の視点から検証し、分析・評価を行いました。また、分析・評価を踏まえて、施設の対応方針を定めました。これらの内容は次のとおりです。

【基本的な考え方】

○ 保養施設は、当面、継続するものの、市内に多数の民間施設があること、施設・設備の老朽化に伴う負担が増大し、全てを継続していくことが難しいことなどから、利用実態と経営状況を精査・分析し、今後のあり方を検討します。

【個別施設ごとの対応方針】

養1 リフレッシュ交流センター（ほっと館）

- 令和6年度からは施設名を「ほっと館」に変更し、温泉保養施設として当面継続します。
- 平成9年に新耐震基準で建設した建物であるものの、施設・設備の劣化が進んでいます。令和5年度の建物基本調査の結果を踏まえ、修繕、改修等の方針を検討します。
- 管理運営は、指定管理者制度を継続しますが、3年後を目途に、緑風荘との包括的・一体的な管理運営手法について検討します。
- 利用料については、「受益者負担の適正化に関する基本方針」（令和5年10月策定）に基づいた見直しを行うほか、他の公共施設や民間施設の入浴料金の状況等を精査し、令和6年度から改定します。

養2 雄勝自然休養村管理センター

- 保養施設としての機能は平成27年度で廃止し、現在は、県有の温泉施設への温泉供給のための経由施設としての役割を担っていることから、当面、必要な修繕を行いつつ維持管理しますが、温泉供給の利用が見込まれなくなった場合は廃止します。

養4 稲川老人福祉センター緑風荘

養5 介護予防拠点施設

- 老人福祉センター機能及び介護予防拠点施設の機能は、民間施設等により代替策が講じられていることから廃止し、介護予防拠点施設を含め施設全体を令和6年度より温泉保養施設として、施設名を「緑風荘」に変更し継続します。
- 施設は、耐震基準は満たしているものの、一部で老朽化が進み、機械設備や内装等の大規模な改修が必要な時期を迎えることから、令和6年度に老朽化対応や利便性向上を図るための改修工事を行い、その後は必要な修繕を行い継続使用します。
- 効率的・効果的に管理運営するため、令和6年度より指定管理者制度への移行を進めます。
- 利用料については、「受益者負担の適正化に関する基本方針」に基づいた見直しを行うほか、他の公共施設や民間施設の入浴料金の状況等を精査し、令和6年度から改定します。

【年度別スケジュール】

項目	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 ~ 2030年度 (R10) (R12)
リフレッシュ交流センター (ほっと館)	修繕・改修等の方針の検討		検討結果に基づく対応		
	● 名称変更・料金改定	緑風荘との包括的・一体的な管理運営手法の検討		検討結果に基づく対応	
雄勝自然休養村管理センター	必要な修繕を行い継続使用				
稲川老人福祉センター緑風荘	改修工事				
	● 名称変更・料金改定 指定管理導入	ほっと館との包括的・一体的な管理運営手法の検討		検討結果に基づく対応	

エ 概算事業費と効果額

単位：千円

施設 No.	施設名称	今後の方向性		更新費用の試算 (40年間：令和2～41年度)						維持管理費	
				現状維持した場合			本計画を実施した場合			単年度の比較	
		建物	長寿命化	大規模改修	建替	合計	長寿命化等大規模改修	建替	合計	現状維持	計画実施
養1	リフレッシュ交流センター (ほっと館)	検討		212,250	381,423	593,673	0	0	0	9,144	9,144
養2	雄勝自然休養村管理センター	廃止		105,961	190,417	296,378	0	0	0	787	0
養4	稲川老人福祉センター緑風荘	継続		194,529	349,578	544,108	0	0	0	20,909	20,909
養5	介護予防拠点施設	継続		66,273	119,096	185,369	0	0	0		
概算事業費 (合計)				579,013	1,040,514	① 1,619,528	0	0	② 0	③ 30,840	④ 30,053

更新費用の試算比較 ②-①	単年度の維持管理費の比較 ④-③
△ 1,619,528 千円	△ 787 千円